

矢崎科学技術振興記念財団は、平成29年度研究助成金授与者などを決定し、8日に都内で贈呈式を行った。授与したのは、研究助成金が15人、国際交流援助が19人、特定研究助成金が1人、矢崎学術賞が2人。

29年度研究助成者を決定

同財団は昭和58年から研究助成を行っており、29年度も新材料・エネルギー・

矢崎科技振興記念財団 贈呈式開く

矢崎学術賞は過去研究助成を受け優れた成果をあげた研究者が対象で、功績賞に名古屋大学大学院工学研究科の忍久保洋准教授、奨励賞には理学研究所創発物性科学研究センター量子機能システム研究グループの大塚朋廣研究員が受賞した。

情報の3分野を対象に選考した。研究助成金は、一般研究助成が200万円、若手向けの奨励研究助成が100万円、財団が特定したテーマの特定研究助成には1000万円。

国際的な学会で論文発表する際の国際交流援助は、渡航費を支給している。今回は一般研究助成に78件の応募があり、関西学院大学の吉川浩史准教授による「金属含有プロック高分子のグラフト・ケミカルエビタキシ」に助成することを決めた。

「高密度ナノ配線形成に資する金属含有プロック高分子のグラフト・ケミカルエビタキシ」に助成すること

ど10件で助成を決定した。

特定研究助成は22件の応募があり、同大学大学院工学研究科の福島誉史准教授による「高密度ナノ配線形成に資する金属含有プロック高分子のグラフト・ケミカルエビタキシ」に助成することを決めた。

を助成すること

を決めた。

研究助成を受け優れた成果をあげた研究者が対象で、功績賞に名古屋大学大学院工学研究科の忍久保洋准教授、奨励賞には理学研究所創発物性科学研究センター量子機能システム研究グループの大塚朋廣研究員が受賞した。